
夫婦の世界守護

カロカロ

暁～小説投稿サイト～ By 肥前のポチ

<http://www.akatsuki-novels.com/>

注意事項

このPDFファイルは「暁く小説投稿サイトく」で掲載中の小説を「暁く小説投稿サイトく」のシステムが自動的にPDF化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「暁く小説投稿サイトく」を運営する肥前のポチに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夫婦の世界守護

【作者名】

カロカロ

【あらすじ】

チートな能力を持った夫婦が、色々な世界に転生して原作改変しようとする者たちから護るお話

夫はあまり活躍しません。妻が主に活躍します。

作者は登場作品ににわかなどころがあります、ご了承ください。ただけらと思いません。

叱咤激励、中傷、批判なんでも受け付けます。

ちゃんとした感想ならなお良しです。

ハジマリ

みなさんは二次創作なので転生者が原作を改変したり、原作にそって話を崩さないように進めていく物語を読んだことがあるだろうか？

私たちはある。

そんな時、どう感じる？

面白い、面白くないの話ではない。

原作を改変するような話を見て、原作が好きな人にとって辛くはないのか？という話だ。

そういう人は最初から読まないだろ。

いや、読んだとしても憤りを感じて中傷的な感想を作者に書くのかもしれない。

私はそんなことしないし、する意味がない。

私なら実際にその作品の中に入れるし、必要とあらば転生者を排除してしまえばいい。

「というわけで、世界を護りましょう」

今までは散々夫の神無かななに止められてきたが、今日という今日は私の意思を押し通してみせる！

そう意気込んで声をかけたのだが

「ダメだ」

やはりというべきか。

告げられたのはいつもの言葉だった。

全知全能の私を止められるのは夫の神無一人。

そういう風に「証明」されている。

「むー、だったら勝手にするもん！」

私はそこから音もなく消えた。

「やれやれ、和葉め……」

神無はゆっくりと腰を上げそこから消えた。

「うわぁ、ドンパチやってるねー」

「私の一人」が降り立ったのはハイスクールD×Dの世界。

天使、悪魔、堕天使、人間、竜、さらには神様までいることが「解る」。

今は堕天使のコカビエルとリアス眷属たちが戦っている真最中。

その中に原作にはいない人間がいることが「解る」。

「あれね」

私は一直線に転生者へと向かった。

「『うーん、どうしようかな』」

僕は転生者だ。神様から「めだかボックス」に出てくる能力や言葉スタイルや知識を全て使えるように頼んだ。

あとはこの世界をどう改変しようか悩んでいるところだけだ……。

「『よし決めた。あの主人公をなかったことにして僕が成り代わろう』」

オールフィクション
大嘘憑を……発動できなかった。

「『あれ？おかしいな……』」

「むーただだよーん」

背後から女性の声がした。

振り返ると知らない（……）女性が立っていた。

「『え？』」

僕は混乱した。

僕の中には全知全能の安心院なじみの知識も入っている。

だからこそ知らない人がいるのがおかしい。

そんな僕の気持ちも無視するかのよう

「森羅万象は全て計算できる。この世に"運命"や"因果律"なんてものは存在しない。

あなたの大嘘憑も因果律を操り、全てをなかったことにできる。というのはいさかいふうの思ってるだけで実際は違う。

裏では秩序としてちゃんと計算できるように成り立っている。そんなことも解らないの？」

小馬鹿にするように笑って女はそういった。

「『誰だい？ 君は』」

「知らなくていいよ。だってあなたは今から死ぬんだもの」

僕はすかさず完成（ジ・エンド）を発動させた。

相手の能力を上位互換にして自分のものにする能力。

しかし、僕にはなにも能力がなかった。

「無駄だよ。私の能力をコピーしたり創ったりできないように証明」されているもの」

僕には言彦の力もやどっている。

安心院さんさえ退けたその力は健在なはずなのに……。

僕は構わず計『1京2858兆0519億6763万3867個』のスキルを使った。

「あなた何も解ってない。（読者たちの世界の）漢字文化圏で最大の表記は不可説不可説転（10[^]37218383881977644441306597687849648128）。その時点で数として劣っている」

※正確には1不可説不可説転||10[^]3721838388197

7 6 4 4 4 4 1 3 0 6 5 9 7 6 8 7 8 4 9 6 4 8 1 2 8

「でもまあ、これでも指数で表せるだけマシなレベルか」

この世には指数では到底表すことのできないグラハム数やフィッシー数 `verl` ~ 6、バード数などがある。

そんなモノに比べれば兆程度は0みたいなものだ。

※無限は数ではないので議論しない。

「『なら言葉で……!』」

「私が操るのは神の言葉。あなたが操るのは人の言葉。人の言葉が神の言葉に干渉できるとでも?」

あれもダメ、これもダメ。

これじゃあまるで……

「神と戦ってるみたいでしょ?」

「『っ!?!? たとえ神でも不老不死の僕は倒せない!』」

だけどそんなものは関係ない。

「そんな設定を無視するわ」

女性は不老不死という設定を無視して僕に致命傷を与えた。

「『君の能力は一体……何なんだよ……』」

「『数学』だよ。私の夫の次に凶悪な能力」

森羅万象は全て数学によって書き表される。

この世を創ったのは最高峰の数学者（神）がいるといわれる。

それが和葉という女性だった。

設定

世界観設定

数学には無限集合論というものがある。

ここでは無限は無限種類あり、無限は無限によって比較でき大きさを比べることができる。

最も小さい無限は可付番集合や可算集合と呼ばれ、その集合の元に対して $\omega : 1, 2, 3 \dots$ と対応付けでき、これは自然数の集合と一致することは自明なので証明は略。

比較するための基準のことを濃度と呼ぶ。基数と呼ぶことも

濃度をアレフと書き、最も小さい無限はアレフ・ヌル（またはアレフ・ゼロ）と呼ばれる。

無限を比べる場合はこの濃度を比べる。

大きくなっていくにつれてアレフ・ゼロ \wedge アレフ・ワン \wedge アレフ・ツー \dots となっていく。

そしてアレフ・ヌルからアレフ・ワンへ濃度を増やす場合はアレフ・ヌルの自乗。

つまりアレフ・ヌル^へアレフ・ヌル^{||}アレフ・ワン

アレフ・ワン^へアレフ・ワン^{||}アレフ・ツー

以下同様。

そしてアレフ・ ω は超限順序数というものになる。

簡潔に言うとも無限の無限乗を無限回したさきの無限大。

つまりアレフ^へアレフ^へアレフ^へアレフ^へアレフ^へアレフ^へ...

ω ^へ ω ^へ ω ^へ...

ω ^{||} ε_0

ε_0 はイプシロン数の中では最も小さい。

そして先ほどのように ε_0 ^へ ε_0 としても ε_1 にはならない。

ε_0 から ε_1 に濃度を増やすためにタワー表記を用いる。

例えば 3 ^へ 3 を 3 ^へ 3 と表記する。

次に 3 ^へ 3 ^へ 3 は 3 ^へ 3 ^へ 3 ^へ 3 になる。

3 ^へ 3 ^へ 4 なら 3 ^へ 3 ^へ 3 ^へ 3 ^へ 3 になる。

つまり X ^へ X ^へ Y は X の X 乗を Y 個繰り返すことになる。

これを用いて $\varepsilon_0 \uparrow \uparrow \omega \parallel \varepsilon_1$ とする。

つまり $\varepsilon_0 \wedge \varepsilon_0 \wedge \varepsilon_0 \cdots \parallel \varepsilon_1$

$\varepsilon_1 \uparrow \uparrow \omega \parallel \varepsilon_2$

以下同様

このように濃度はどこまでも増やしていける。

そうしてあらゆる無限の濃度よりも大きい無限を絶対無限と呼ぶ。

和葉と神無はその絶対無限次元から世界を見下ろし観察している。

和葉の設定

能力：数学

森羅万象は全て秩序的な働きをしており、絶対に計算できてしまう。

和葉には不意打ちというものは一切存在しないし、夢や幻なども存在しない。

そして、全てを計算できるため運命や因果律も存在しない。

運命系や因果律系の能力は一切使えない、発動できない、効果を及ばさない。

そのため普段から「解る」という言葉を使う。

数学は神の言葉のため絶対に逆らえない。

神の言葉を覆せるのは神の言葉（数学）だけ。

しかし、数学という異能や能力を自分以外使えないことを数学的に証明しているため叶わぬ夢である。

第一話でそれがお分かり頂けるだろう。

数学は神の言葉のためなんでもできるし、できないことはないため全能。

そして、数学という能力を和葉以外は使えない以上全能でなくなるように証明されている。

あらゆる自然法則を自由に書き換えたり、世界を改変したりするのは赤子の手をひねるより簡単。

移動速度は絶対無限。

そして時間無視である。

無限速なら物理法則的に時間無視だろ！と突っ込みたくなるが、ここでいう時間無視は時間を自由に操れるという意味である。

たとえ速度が無限であるとも、時間を無視されてはかなわない。

時間とはそういうものである。

時間については私たちの宇宙（1次元だといわれている）より一つ上の次元（1次元）ではこの宇宙とは違う流れの時間軸が存在し、そこからみると私たちの宇宙空間の時間は止まって見えるという。

さらに1次元の宇宙には・・・と無限に続く。

つまり時間無視の時間無の時間無視以下絶対無限。

絶対無限次元より小さい次元は全て点のように見える。

どんなに速く動いても点の中を動いているのだから動いたことにならない。

そして絶対無限次元には和葉以外がこれないように証明してある。

そのため神無という例外を除き誰も来れない。

数学によって設定無視や能力無視をできることが証明できているため、運命云々はこっちでも当てはまり止められる。

そして、これらの効果は絶対無限次元全てに及ぶ。

これらは全てす学的に全て証明されているため、神無以外では和葉に干渉することはできない

通称：数学神

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
http://www.akatsuki-novels.com/stories/index/novel_id~4741

夫婦の世界守護

2013年08月28日 02時40分発行